

# 武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2022.06.27 No.15



## 石井邦也の活動から武庫川臨床教育学会が継承すること

前号（第14号）のニュースレターでお知らせしましたが、本学会副会長の石井邦也さんが逝去されました。理事会・事務局会議で、本学会を牽引していただいた石井さんの活動や人となり振り返る会を企画いたしました。石井さんを偲ぶ会という名称ではなく、心の中で石井さんと対話しながら、私たちがこれからの武庫川臨床教育学会の未来を考えていく会として企画いたしました。下記の通り、2部構成で考えております。

◆日時 2022年7月9日（土）午後3時～5時

◆場所 武庫川女子大学教育研究所3階304教室  
（申請中）

※ 対面とオンラインの同時開催です。オンライン参加希望の方は、次ページの「参加申し込み」をご覧ください。7月6日までに申し込みください。



2015年9月、石巻市での震災調査時、  
懇親の場でグラスをかける石井さん

◆内容

第1部「石井邦也の活動から武庫川臨床教育学会が継承すること」（進行：吉益）

武庫川臨床教育学会  
<http://mukogawarinkyo.com/>

〒663-8558  
兵庫県西宮市池開町6-46  
武庫川女子大学教育研究所内

電話番号:075-922-7749（吉益自宅）  
メール: [mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp)

- 報告 1 石井邦也さんと臨床教育学 上田 孝俊（武庫川臨床教育学会会長）  
報告 2 石井邦也さんと「自主ゼミ」の活動 春木 美治（自主ゼミメンバー）  
報告 3 「子どもの居場所 Yu-Ya」での石井さんの取り組みの姿 老田 信 牧師（大阪聖和協会）

※ 3名の報告（各 20 分程度）の後、参加者で自由に石井さんの思い出・学んだことを語りあいます。

## 第 2 部 自主ゼミ体験入門

月 1 回の「自主ゼミ」では、1 冊の本を決め、毎回順番でチューターを決めてゼミのように読みあう活動を続けています。今は、鶴見俊輔『教育再定義へのこころみ』をテキストにして開催されています。

閉会挨拶（中村副会長）

## 花園大学フィールドワーク

「臨床の現場から学ぼう」、石井さんがいつも語られていた言葉でした。3つの学習会の合同企画として花園大学のフィールドワークを企画いたしました。2月の大会で報告された長谷範子さん（花園大学）の提起を軸にしながら大学における教員養成のありかた、子ども・青年理解について深めていきたいと思ひます。

◆日時 2022 年 7 月 18 日（月・祝）午前 10 時～12 時

※ 花園大学正面口に集合（JR 山陰線「円町」下車、徒歩 5 分）し、教室へ移動します。

◆内容「大学における教員養成の課題」

- ・ 学生理解 コロナ禍の状況の教員養成 教員の意識
- ・ 合理的配慮をどうするか等など

問題提起：長谷 範子（花園大学）

意見交流

## 上記 2 つのイベントの参加申し込みについて

1. 「石井邦也さんの歩みと武庫川臨床教育学会」への参加

会場参加を基本としますが、オンライン参加を希望される方は **7 月 6 日まで** に下記メール宛にその旨をご連絡ください。折り返し ZOOM 参加の URL 等を送信します。✉：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

2. 「花園大学フィールドワーク」への参加

下記のメール、または電話で **7 月 15 日まで** にお申し込みください。よろしくお願ひします。

✉：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp 電話：075-922-7749（吉益自宅）

## ◆武庫川臨床教育学会事務局体制について

年1回の研究大会と機関誌の発行、ニュースレターの発行（年4回）、3つの学習部会の推進、定例の事務局・理事会を維持し、確立していきます。この夏に役員選挙がありますが、現在の理事・事務局メンバーで方向性を継続して協議しています。武庫川女子大学大学院臨床教育研究科の先生とも協議して活動の場が維持できるようにしていきます。なお、学会事務局のメールと連絡先は次の通りです。

メール：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

電話：075-922-7749（吉益自宅）

※ 当面の間、留守番電話対応をしています。お名前と用件を述べていただければ必ず返信の電話をいたします。

## ◆会計監査を終えました

2021年度の決算報告の会計監査が、コロナ禍の対応が困難な中、事務局幹事（会計担当）高橋さん、監査の岩崎さん・小谷さんのご尽力で厳正に行われました。報告書は次回のニュースレターで紹介いたします。取り急ぎ報告します。ご苦労様でした。

## ◆会費納入をよろしくお願ひします

2022年度の会費納入につきまして、別添の通り、お振込みいただきますようお願いいたします。ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方で、「払込取扱票」（同封の用紙）を用いずに直接学会口座に送金いただく場合は、「ゆうちょ銀行 〇99店（ゼロキューキュー店） 当座0224555 ムコガワリンショウキョウイクガツカイ」宛に送金をお願いします。この場合、取扱手数料は無料です。

## ◆新会員紹介

佐藤(サトウ) 奈美(ナミ) さん  
藤原(フジワラ) 直子(ナオコ)さん  
松島(マツシマ) 英恵(ハナエ)さん  
西田(ニシダ) 淳子(ジュンコ)さん

奥川(オクガワ) 純子(スミコ)さん  
團野(ダンノ) 理恵(リエ) さん  
藤原(フジワラ) 実沙(ミサ) さん

7人の方が新たに会員になりました。いずれも2022年3月、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科修士課程修了の方々です。それぞれの研究分野での活動を学会としても支援できるよう、取り組みたいと思います。よろしくお願ひします。

## ◆8月には、第9期（2022年9月から2年間）役員選挙がおこなわれます。

選挙管理委員を今井美樹会員、岡田和代会員に委嘱し、8月初旬に投票の予定で学会理事、監査の役員選挙が実施されます。学会活動をさらに積極的に展開するための大事な選挙。棄権のないようによろしくお願ひします。

## シリーズ：私と臨床教育学⑬

### 私と臨床教育学

小谷 正登

私は1995（平成7）年4月、阪神淡路大震災の三か月後、臨床教育学研究科修士課程に2期生として入学し、高校教員との二足のわらじを履きました。当時、夜間大学院は珍しく多くの受験者があったことを覚えています。2年生から心理学の大家である祐宗省三先生（故人）のゼミに入り、幼児心理学を専攻、幼稚園児の遊びと象徴機能の関係について研究を行いました。もともとは歴史学（西洋史専攻）を学んでいたため、どうしても「遡る」志向があるようです。子どもたちの課題に対応するためには、課題が発生する前に適切な取り組みをすることが効果的であるとの発想です。その意味では、私にとって臨床教育学の「臨床」は、「病人の床のそばに行くこと・寄り添うこと」という意味とは少し異なっているかもしれません。一方、「臨床」には「現場を重視する立場」という意味合いも含まれていると言われます。現在は、創設時から研究科の教員として院生の指導に尽力されました白石大介先生（武庫川女子大学名誉教授）の研究を引継ぎ、「生活臨床（生活の見直し）」の意義とその実践の可能性について、10年以上にわたって数名の同研究科の修了生とともにチームで研究を進めています。主な手法は、子どもたち、保護者、教員（保育士を含む）の方々を対象とした生活実態調査を行い、学校現場などで得られた量的データを統計的に分析する仮説検証型の研究です。

私にとっての臨床教育学は、教育学・心理学・福祉学などの学問領域に加え、医学・生理学などの専門領域の知見も加え、複眼的思考をもとに科学的見地から子どもの生活病理（家庭環境の変化などによる子どもの生活上の異変）をとらえるものです。今後も、様々な子どもの課題の克服策として、「生活臨床（特定の課題を抱える人々への支援とは限定せず、生活環境・習慣の乱れに対応するコミュニティ・アプローチおよびメンタルヘルス向上の方策としての方針とその内容）」についてチームで研究を進める所存です。



#### 編集後記

「集中治療室に入ります。もうお会いできないと思います。お世話になりました。武庫川臨床教育学会のみなさんによろしくお伝えください。」これが、私と石井さんの交わした最後の言葉でした。自主ゼミを中心とした武庫川での活動、保育現場の活動など、石井さんの足跡を学ぶ会を。理事会として単なる偲ぶ会ではなく、心の中で石井さんと未来を語る会と位置づけ計画しました。花園大学のフィールドワークも「現場で学ぼう」といつも言われていた石井さんの言葉の具現化でもあります。会員のみなさまの参加をおまちしています。

<文責：吉益>